

特定非営利活動法人 トチギ環境未来基地

平成28年度

(平成28年4月1日 ~ 平成29年3月31日)

事業計画書

数値目標

ボランティアの数	2,500人
整備面積	竹林 3ha 里山 7.5ha
寄付額	2,500,000円
年度末会員数	100人



平成 28 年度 重要方針

設立から 8 年目を迎え既存の事業における多様なボランティアを受け入れ、質の高い環境保全活動のさらなる充実を図るほか、他団体と連携し Conservation Corps の普及に本格的に取り組む。
平成 28 年度は以下を重要方針とし業務を行う。

1. 新規：全国への普及のフェーズへ。Japan Conservation Corps Network の本格始動

Conservation Corps を全国に広げていく取り組みを本格的に始める年とする。類似活動を行う他の団体と共に設立した Japan Conservation Corps Network を核に、農山村に若者がチームで長期間滞在しながら活動を行うシステムを整えていくとともに、個々の団体のプログラム運営のサポートを行う。JCCN の事務局も務め、ネットワーク活動の充実も図る。給付型奨学金制度の検討も開始。

2. 継続：若者の力を森づくりにつなげる、を強化する。若者（後継者）不足に悩む団体への派遣システムも確立。

森林ボランティア活動も全国的に数が増え一定の役割を担うようになったが、多くの団体が若者、後継者不足に苦慮。それに対して当団体が貢献できることの一つに、若者の森づくりボランティアを現場での活動を育み、各団体にマッチングするという方法がある。平成 27 年度の一連の経験を踏まえ、より有効な仕組みを築く。

3. 継続：森林×社会課題を形にしていく。H28 は「子どもの貧困×森林」をスタート。

森林をこれからも守り、育てていくためには、森林の持つ、経済的価値、公益的な価値を高めることに加えて、周辺領域でできることを形にし、付加価値を高めていくことが重要になる。森林を切り口とした社会的課題の改善や、森林とつながりが薄かった人を森と上手につなぐような活動を切り拓いていく。「子どもの貧困と森林」、「若者支援と森林」、「教育と森林」、「福祉と森林」の活動を行う。テーマを形にするプログラムの実施にも力を入れる。

4. 継続：会員の増加、100人の会員に支えられた団体を目指す

これまで会員との関わり方を一新し、会員が参加しやすい活動の充実や、会員が自主的に行える活動もつくっていく。職員がほぼすべてを企画、運営するから、職員と会員で活動をつくっていくに舵をきり、活動自体を充実させるとともに、会員増加にもつなげる。会員制度の見直しも含め、会員を増加するための方法を考え具体的に取り組む。

5. 新規：活動エリアと活動拠点の拡大。県北エリアでの活動グループをつくり、県北の森に取り組む

県北エリアでの活動と、活動グループ「トチギ環境未来基地県北チーム」の運営をスタートする。

活動拠点の整備は、認定 NPO 法人とちぎボランティアネットワークとともにに行い、森づくり活動に限らず県北地区におけるボランティア活動の促進、発展に取り組む。

平成 28 年度 事業一覧

1. 若者の社会貢献活動拠点づくり事業
2. 若者のチームによる長期間の森林、自然、地域保全活動（Tochigi Conservation Corps）事業
 - ① Tochigi Conservation Corps プログラム 2016 春（第 15 期）
 - ② Tochigi Conservation Corps プログラム 2016 秋（第 16 期）
 - ③ Japan Conservation Corps Network 事務局の運営
3. 自然環境の保全、再生、活用に関する事業
 - ① 森林山村多面的機能発揮対策事業
 - ② 幼稚園や福祉施設での森づくりと体験イベント実施
 - ③ 企業・グループボランティアの受け入れ事業
 - ④ 親子向け、自然活動の企画運営
 - ⑤ 那珂川を未来へ！ 周辺の里山整備事業
 - ⑥ 県北エリアにおける森づくり活動の促進事業
4. 地域・環境活動リーダーの育成事業
 - ① 若者森づくりボランティア派遣プログラム
 - ② グローバル人材を地域で育む、英語で森づくりキャンプ事業
5. 災害からの復旧・復興に関する事業
 - ① 福島県いわき市での、海岸林再生、「苗木 for いわき」プロジェクトへの協力
6. バイオマス資源の活用推進に関する事業
 - ① 木エクラフト教室、木エクラフトを活用した応援会員の獲得
7. 若者自立支援団体との連携による、人と緑を育む森づくり事業
 - ① 若者自立支援団体の日帰り活動の企画運営（しごとや）
 - ② サポステ短期合宿プログラムの運営
8. 国際ボランティアの受け入れを通じた、国際協力事業
 - ① インターンシッププログラムと、Gap Asian Partnership Project を通じた支援の実施
9. 若者の社会貢献に関する調査研究事業
 - ① 米国 Conservation Corps に関する調査研究報告書の制作
10. ソーシャルプロモーション事業

H28 フィールド整備方針

フィールド整備スケジュール、フィールド計画は別紙参照。

創造の森 (里山 面積：0.4ha)

あさひが丘・雷電神社裏 (里山 面積：0.6ha)

竹原 (竹林) (竹林 面積：3ha)

竹原 (里山) (里山 面積：3ha)

希望の丘 (里山) (里山 面積：0.3ha)

美里学園の森・バリアフリーの森 (益子町) (里山 面積：0.7ha) →ふれあい、交流名前提案

市貝 サシバの里 (里山、耕作放棄地) (里山 面積：0.8ha)

市貝 青木さんの森 (里山、耕作放棄地) (里山 面積：3ha)

1. 社会貢献活動拠点づくり事業

Conservation Corps プログラムの終了後、次のステップに向けて準備をするメンバーに、オフシーズンに明在庵を拠点として活用してもらおう。活動の場の提供や、実現したいことへのサポートもできる限り行う。

2. 若者による、森林、自然環境、地域再生活動、Tochigi Conservation Corps の実施

① Tochigi Conservation Corps プログラム 2016 春	
期 間	平成 28 年 4 月 21 日 (木) ～ 7 月 10 日 (日) 3 ヶ月
目 的	米国の Conservation Corps をモデルとした、若者のチームによる長期間の環境保全活動の日本版の確立。作業の成果と若者の育成の両立を図る。日本の環境保全活動の質を高める。
内 容	プログラム中の活動、作業内容 1. 風と緑の幼稚園 創造の森整備事業 2. あさひが丘の整備 3. 竹原竹林整備 (森林山村多面的機能) 4. 希望の丘の整備 5. 美里学園の森の整備 6. 市貝 サシバの里整備 7. 市貝 青木さんの森

	8. 各種イベントの運営、参加 9. 学習・技術研修 *Special volunteer（日本、インド）が2名おり、プログラムの二酸化炭素削減の提案を立案してもらおう。ファンドレイジングも？
参加者	全期間参加者 3人 CC参加者：アジアからのメンバーは、日本語初級も可とする Special volunteer：2名(日本、インド) 部分参加者 延べ20人（部分参加者、週末ボランティア）
場所	宇都宮市、茂木町、市貝町、益子町
事業目標と成果	各フィールドにおける、達成目標及び計画を定め、作業することの複合的な価値を高める。作業技術なども高め、より大きな成果を上げることができるよう研修なども充実させていく。

② Tochigi Conservation Corps プログラム 2016 秋	
期間	平成28年9月15日（木）～12月3日（木） 3ヶ月
目的	米国の Conservation Corps をモデルとした、若者のチームによる長期間の環境保全活動の日本版の確立。作業の成果と若者の育成の両立を図る。日本の環境保全活動の質を高める。
内容	プログラム中の活動、作業内容 1. 風と緑の幼稚園 創造の森整備事業 2. あさひが丘の整備 3. 竹原竹林整備（森林山村多面的機能） 4. 希望の丘の整備 5. 美里学園の森の整備 6. 市貝 サシバの里整備 7. 市貝 青木さんの森 8. 思川流域の竹林 9. 各種イベントの運営、参加 10. 学習・技術研修
参加者	全期間参加者 5人 部分参加者 30人
場所	宇都宮市、茂木町、市貝町、益子町
事業目標と成果	各フィールドにおける、目標及び計画を定め、作業することの複合的な価値を高める。作業技術なども高め、より大きな成果を上げることができるよう研修なども

③ Japan Conservation Corps Network 事務局の運営	
期 間	平成 28 年 7 月～平成 29 年 5 月
目 的	米国の Conservation Corps をモデルとした、若者たちのチームが農山村に長期間滞在しながら森づくりや環境保全活動に取り組むプログラムのシステム化と全国への普及に取り組む
内 容	<p>プログラム中の活動、作業内容</p> <p>① Conservation Corps プログラム向上・普及検討会議の実施（3 回） 開催時期：2016 年 8 月、12 月、2 月 開催場所：東京都（オリンピックセンター） 成果物：Conservation Corps スタートアップガイドの作成 Conservation Corps マニュアルの作成</p> <p>②日本版 Conservation Corps に関する情報を発信する Website の作成</p> <p>④ シンポジウムの開催</p> <p>本検討会の成果を広く発信するシンポジウムを 2 月に都内で開催する。</p>
参 加 者	<p>検討会：7-9 人</p> <p>シンポジウム：50 人</p>
場 所	日本国内、北海道、栃木、東京、福岡、熊本、他
事業目標と成果	<p>米国の Conservation Corps をモデルとした、若者たちのチームが農山村に長期間滞在しながら森づくりや環境保全活動に取り組むプログラムの標準化、質の向上が進み活動の成果がさらに高まる。</p> <p>プログラム実施団体が増え、活動の規模が拡大する。平成 28 年 3 月時点では同プログラム実施団体は全国で 4 団体であるが、2016 年に 2 団体増、2018 年までに 10 団体に拡大することを目指す。</p>

3. 自然環境の保全、再生、活用に関する事業

① 森林山村多面的機能発揮対策交付金活動	
期 間	平成 28 年 6 月上旬 ～ 平成 28 年 1 月中旬
目 的	荒れた竹林の整備と竹原地区の活性化に向けて、ボランティアと共に年間を通じて活動。森林・竹林・里山を整備する仲間の会の皆様のご協力を得て実施。
内 容	Conservation Corps プログラム、週末ワークキャンプなどを組み合わせて竹林 3ha、里山 3ha を整備する。空間利用プログラムは、幅広く広報して参加者のすそ野を広げるほか、若者支援団体とも協力し実施。
参 加 者	作業ボランティア 延べ 300 人

場 所	茂木町竹原地区
事業目標と成果	整備の質を追求し、ボランティアでもこれだけできるということをアピールする。

② 幼稚園や福祉施設での森づくりと体験イベント	
期 間	平成 28 年 4 月 ～ 平成 29 年 3 月
目 的	これから森林や里山を守っていくためには、森の整備を進めることと同時に、現代に合った形で森に価値を付加していくことが大切である。森林と福祉、森林と教育など森の役割を高める活動を形にしていく。
内 容	森の中での自然体験活動、幼稚園等に出前して自然体験プログラムの実施など <ul style="list-style-type: none"> ・創造の森（秋の自然体験イベント） ・美里の森オープンデー（午前、利用者、地域住民、学生） たすくのメンバーとも一緒に ・希望の丘で学童の子どもたちと自然体験 サンバの里：完成後 夏に一度イベントを企画（9月）
参 加 者	運営は Conservation Corps 参加者を中心に。 参加者は、幼稚園児、福祉施設利用者など
場 所	創造の森、美里学園の森、希望の丘など
事業目標と成果	安定したプログラムと仕組みの開発

③ 企業・グループボランティアの受け入れ	
期 間	平成 28 年 4 月 ～ 平成 29 年 3 月
目 的	「誰でもできる森づくり」の枠を広げ、積極的にグループの活動を受け入れる。企業の新人研修などの研修プログラムも組み立て、新しい形での森の中での人づくり、森林ボランティア活動による人材育成に力を入れる。 森づくりの担い手を増やすことも目指す。
内 容	企業などの団体、グループの受け入れを行う。要望に応じた研修内容もプログラムに組み込む。
参 加 者	作業ボランティア合宿 1回 15人×4回 ① 株式会社 SMBC 新人研修（1日・30人）5月 ② 株式会社 ホンダトレーディングボランティア（2泊・10人×2回）6, 11月

	<p style="text-align: right;">新人研修（4泊・10人）2月</p> <p>③ 株式会社 NTT 東日本 検討中：複数社 その他、年2回受け入れる。（特に栃木県内企業へ営業）</p>
場 所	茂木町竹原地区、市貝町サシバの里、希望の丘 他
事業目標と成果	参加団体、企業の活動実施に対する期待と、森づくりの効果をバランスよくみて成果とする。研修プログラム、メニューの充実を図る。

④ 親子向け、自然活動の企画運営	
期 間	平成28年春、夏の年4回
目 的	家族向けの自然活動の参加者層を広げて、幅広い参加者が集まれる仕組みをつくる。
内 容	他団体にも協力してもらい、自然活動を企画する。楽しくて役立つような内容をつくる。 Green Gift プロジェクト：4月16日、5月13日、7月30日(日帰り)
参加者	各回日帰り：70人 目標200人以上
場 所	美里学園の森、サシバの里 他
事業目標と成果	幅広い年齢層の方たちとの森林整備体験を通して、活動のすそ野を広げる。 整備した森の活用も兼ねて、開かれた場所にする。 7月以降も、活動の継続を模索している。

⑤ 那珂川を未来へ！ 周辺の里山整備事業	
期 間	平成28年7月～平成29年1月
目 的	清流那珂川を未来へつないでいくために、その周辺の里山の整備を進める。那珂川を中心に据え、支流を歩くツアーなど、里山の重要性の理解も深まるプログラムも実施する。上流の那須烏山市での整備活動も開始する。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・里山、竹林整備活動 期間中定期的開催 ・那珂川への支流を歩くツアーの開催3～4回
参加者	☆目標250人以上
場 所	・茂木町竹原地区及び那須烏山市の里山、竹林
事業目標と成果	那珂川を切り口に、新しいボランティアを森づくり活動に呼び込む 寄付キャンペーンも継続し、活動資金の安定確保を図る

⑥ 県北エリアにおける森づくり活動の促進事業	
期 間	平成 28 年 4 月～平成 29 月 3 月
目 的	栃木県北の森づくりボランティア活動を発展させるために、拠点を置き、活動を強化する。
内 容	他分野を含めた一般的なボランティア活動を促進させるために、とちぎボランティアネットワークと協力して、拠点を強化するサポートを行う。
参 加 者	毎月。
場 所	那須塩原市、那須町、他
事業目標と成果	県北からの会員 50 人増加。 県北での森づくりフィールド 1 か所で活動をスタートさせる。
備考	とちぎボランティアネットワークと連携して行う。

4. 地域・環境活動リーダーの養成事業

① 若者森づくりボランティア派遣プログラム	
期 間	平成 28 年 4 月～平成 29 月
目 的	将来にわたり日本の豊かで美しい森林、里山を保全していくためには、森林、里山ボランティア活動の継続、発展は不可欠である。森林ボランティア団体は年々増加しているが、ボランティア参加者の 51%は 60 才以上というのが現状で、活動団体の多くは、「高齢化」、「後継者不足」の課題を抱えている。 この課題を克服するためには、若者を活動に巻き込み、担い手としての力をつけ、団体にマッチング（派遣）し、協力して活動を運営していくことを支える、という仕組みが必要である。
内 容	活動（ステップ）① 若者の森林・里山ボランティア活動の機会を増やす。 参加者を増やす。（裾野を広げる） 活動（ステップ）② 若者トレーニングプログラムの実施（担い手を増やす、力をつける） 活動（ステップ）③ 団体向け「若者と上手く活動するための研修」を実施 活動（ステップ）④ 若者と団体のマッチング機会（派遣）を作る。若者が団体で活動を始め、フォローする
参 加 者	トレーニングプログラム参加者 28 人 6 団体に、12 人がコミット。マッチング後のフォローアップも仕組み化する。
場 所	益子町及び県内各地
事業目標と成果	（1）28 年度に達成したい成果 2 年目となる平成 28 年度は今年度の活動経験をいかし、各活動のさらなる充実と質の向上を図る。

	<p>若者の活動への参加を平成 27 年度の 1.25 倍増加させ、参加者の裾野を広げるとともに、作業を進める力に変えていく。特に大学やサークル等との協力を強化する。若者研修は広報を強化し参加者の安定的確保をはかる。研修後の関わりを充実させ、人材バンクを効果的、機能的にしていく。マッチング後のフォローアップ活動について効果的な方法を試行錯誤し、マッチングした各団体と若者がより良く活動できるようにフォローアップの内容の仕組み化をはかる。それらを通じて、助成期間後も継続して取り組んでいける基盤をつくる。</p> <p>(2) 28年度の活動計画、活動ごとの活動目標</p> <p>活動1 栃木県内の7つのフィールドで、森林、里山ボランティア活動を行い、1,600人のボランティアが参加できる機会をつくる。大学や環境系サークルへの働きかけをさらに強化する。</p> <p>活動2 若者トレーニングプログラムを、栃木県央、県北地域で4回開催する(5月、7月、10月、1月)。28人が参加。技能チェックリストも作成し、「できるようになった」ことを客観的に確認できるようにする。</p> <p>活動3 「高齢化」、「後継者」問題を改善したい団体に向けた「若者と上手く活動するための研修」を栃木県央、県北地区で3回開催する(7月、8月、12月)。10団体が参加。作成したホームページで、各団体の活動も紹介し若者を各団体が呼び込めるような流れをつくる。</p> <p>活動4 若者と団体がつながるマッチングの機会を県央地区、県北地区で3回設ける(8月、11月、2月)。そのための団体ネットワークを拡充する。活動開始後のフォローアップ研修も2回実施。</p>
備考	地球環境基金助成事業

② グローバル人材を地域で育む、英語で森づくりキャンプ事業	
期 間	平成 28 年 4 月～平成 28 年 3 月
目 的	高校生を対象として、英語で森づくりボランティア合宿を運営することで、グローバル人材を育む。通常のアジア人ボランティアの力の発揮する場ともなる。
内 容	1泊2日を3回、(6月18～19日、8月20～22日、11月26～27日)
参 加 者	各回6人×3回=18人
場 所	美里の森、竹原、他
事業目標と成果	<p>教育と森林をプログラム化し、グローバル人材を増やすことで、未来の活動の担い手を増やすことにもつながる。</p> <p>新しい収入の仕組みをつくる。</p>

5. 災害からの復旧、復興に関する事業

① 福島県いわき市での、海岸林再生、「苗木 for いわき」プロジェクトへの協力	
期 間	平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月
目 的	いわき市の美しい海岸林の再生に向け、市民の力を集め活動を行う。海岸林の清掃や整備、市民の寄付を集め、市民に苗木を育ててもらい植林を行う。
内 容	海岸林の清掃、整備は毎月定期的に行う。『苗木 for いわき』プロジェクトは、寄付を集める仕組みづくり、子どもたちや障がい者など、現場での復興支援活動がなかなかできない人達を中心に苗木を育ててもらい、それを海岸に植林する。誰もが震災からの復興に貢献できる仕組みをつくる。活動への参加を通じて、市民の主体的な地域づくり、防災意識の向上を図る。海岸林整備活動を通じたいわき市と避難者の友好関係の構築にも取り組む。
参 加 者	1,500 人
場 所	いわき市及び栃木県
備考	フクシマ環境未来基地へ移管。ボランティアは継続。 栃木のクロマツパートナーは継続（4 団体）

6. バイオマス資源の活用推進に関する事業

① 木エクラフト教室、木エクラフトを活用した応援会員の獲得	
期 間	平成 27 年 5 月～平成 28 年 2 月
目 的	木材の有効活用を進めるとともに、地元の木の良さを楽しみ木エクラフトを通じて知ってもらえる機会をつくる。
内 容	森林、里山の整備で出た木材を活用し、木エクラフトキットを制作。木エクラフト教室を定期開催するとともに、栃木県森づくり応援寄付と連動した木エクラフトキットを制作。
参 加 者	エコアクションデー（5 月 21 日）（高根沢町元気あっぷ村） コンサーレ（10 月 23 日） 富士通小山工場イベントへの出展？（10 月） 那須烏山子どもテント村（毎月？）
場 所	栃木県内
事業目標と成果	整備作業→材料搬出→乾燥→パーツ作りを仕組み化する。 木エクラフトキット制作 100 セット

7. 若者の自立支援団体と連携による、人と緑を育む森づくり事業

① 若者自立支援団体向けの日帰り活動企画運営	
期間・時期	平成 28 年 4 月 ～ 平成 29 年 3 月
目的	若者支援団体を利用する若者たちの力を環境保全活動に繋げる。参加した若者たちが力をつけ、視野を広げられるプログラムとする。合宿型の良さを活かしたプログラムを構築。
内容	栃木県若年者支援機構の集中訓練プログラムとして 3 日×2 回実施する
参加者	7 人×3 日×2 回=42 人
場所	明在庵及びプロジェクトサイト
事業目標と成果	参加した若者の状態変化（元気になる、コミュニケーション力の向上、前向きな意欲の向上、森林、環境への興味向上） 環境保全活動の、自立支援的效果のまとめ、検証、ノウハウ化

② サポステ短期合宿プログラム事業	
期間・時期	平成 28 年 4 月 ～ 平成 29 年 3 月
目的	若者支援団体を利用する若者たちの力を環境保全活動に繋げる。参加した若者たちが力をつけ、視野を広げられるプログラムとする。合宿型の良さを活かしたプログラムを構築。
内容	栃木県若年者支援機構の集中訓練プログラム合宿として 2 回実施する
参加者	7 人×2 回=14 人 ①5 月 23 日の週 ②10 月
場所	明在庵及びプロジェクトサイト
事業目標と成果	参加した若者の状態変化（元気になる、コミュニケーション力の向上、前向きな意欲の向上、森林、環境への興味向上） 環境保全活動の、自立支援的效果のまとめ、検証、ノウハウ化

8. 国際ボランティアの受け入れを通じた国際協力事業

Conservation Corps プログラムへのアジア人ボランティアの受入。計 4 名。

① Green Asia Partnership プロジェクトの支援	
期間・時期	平成 28 年 5 月 ～ 平成 29 年 3 月

目 的	昨年度 1～2 月にインターンで働いていた Jessa（フィリピン）の関わる活動、Advocacy, Restoration and Research の支援と通して、フィリピンの活動との連携。 (Jessa は大木本と EarthCorps で働いていたメンバーの一人)
内 容	Green Fiesta プロジェクトへの寄付を呼びかけ、日本でもプロモーションを行う。 フィリピンの森、環境の現状を知ってもらう機会にもいかす。 寄付を贈呈し、レポート作成。 必要に応じて協力する。
参 加 者	ボランティアに寄付を呼びかける。
場 所	明在庵及びプロジェクトサイト
事業目標と成果	寄付額 390,000 円

9. 若者の社会貢献に関する調査研究事業

① 米国 Conservation Corps に関する調査研究報告書の制作	
期間・時期	平成 28 年
目 的	今後の Conservation Corps プログラムの発展に必要な参考資料となる米国 Conservation Corps の調査研究を行う。
内 容	研究成果を、運営マニュアルにまとめる。大木本が EarthCorps で得た知見をマニュアルにいかす。マニュアルは冊子にして、配布、ダウンロードできるようにする。
場 所	事務局
備考	JCCN 協議会で実施。

10. ソーシャルプロモーション事業

① 会報誌の発行・ボラ募集情報の発行	
期間・時期	会報：4 月、7 月、11 月、1 月（年 4 回発行） 原稿締切：各月 15 日、 発送日：最終週金曜日
目 的	環境保全活動の必要性、若者の活躍、想いを広く社会に発信する。共感をひろげ、応援いただく方を増やす。Conservation Corps に関する情報も発信し、プログラムの意義を広く伝える。環境分野で活動する人のインタビューなども記事とし、読み物としての面白さも高める。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・活動、近況報告 ・研究、論文の発信 ・参加者募集や関連情報の発信
受 益 者 数	会員及び協力団体、発行部数 80 部程度

場 所	事務局
-----	-----

② メールマガジンの発行	
期間・時期	毎月 1 日発行
目 的	環境保全活動の必要性、若者の活躍、想いを広く社会に発信する。共感をひろげ、応援いただく方を増やす。Conservation Corps に関する情報も発信し、プログラムの意義を広く伝える。参加者募集などの広報としても。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・活動、近況報告 ・参加者募集や関連情報の発信 ・寄付やネットのできる応援などの呼びかけ強化
受 益 者 数	メールマガジン購読者数 250 人
場 所	事務局

③ ホームページの管理、更新	
期間・時期	通年
目 的	タイムリーな情報発信と、活動報告、ボランティア募集等幅広く。ボランティア募集、寄付募集ページの改訂は 6 月まで。その他のページは 8 月中旬までに完成。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・活動、近況報告 ・参加者募集や関連情報の発信 ・若者よ森へ出よう！HP
受 益 者 数	ホームページ閲覧者数
運営人数	ホームページ更新：神、(大木本)
場 所	事務局

④ その他のサイトの管理、更新	
期間・時期	通年
目 的	タイムリーな情報発信と、活動報告、寄付のやりとりなどを幅広く行う。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・CANPAN (CANPAN ペイメント含む) ・Links for GOOD ・Gooddo ・しえあわせ Web ・Just Giving ・かざして募金 ・ファンダムビレッジ ・Yahoo!ネット募金 ・おかげ様しあわせプロジェクト
受 益 者 数	ホームページ閲覧者数

運営人数	ホームページ更新：大木本
場 所	事務局

⑤ インターネットを使ったボランティア広報強化	
期間・時期	通年
目 的	タイムリーな情報発信と、対応を通して、多くのボランティアに呼びかける。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアプラットフォーム ・とちぎのエコもり ・CANPAN ブログ ・他のサイトも検討を行う
受 益 者 数	ホームページ閲覧者数
運営人数	ホームページ更新：神
場 所	事務局

⑥ 講演講師、研修講師の派遣	
期間・時期	声をかけていただいた中で判断。社会の役に立てる内容であれば基本的に受けていく。

⑦ シンポジウムの開催	
期間・時期	年数回
目 的	「若者と環境」、「グリーンカラージョブ」、「Conservation Corps」のいずれかの内容で、活動の必要性等を発信する。
内 容	Conservation Corps プログラムの報告会以外に、取り組みについて発信できるようなシンポジウムを開催する。
受 益 者 数	50 人
場 所	宇都宮市内（ぼぼらを想定） CC 報告会、若者と団体マッチング事業に平行して行う。

その他

ファンドレイズイベントの開催

期間・時期	5月、12月
目的	活動を持続的、発展的に行うための財政基盤を強化するために、ファンドレイズの新しい仕組みをつくる。
内容	米国 EarthCorps のファンドレイズイベントを参考に、有効なイベントを作りこむ。 5月は EarthMonth を切り口に寄付ハイクを通して、呼びかけを強化。 12月 は寄付月間を切り口に、他環境保全団体と協力したファンドレイジングイベントを行う。(環境 RUN+シンポジウム型報告会)
場所	宇都宮市内